

# 片思いの将棋

将棋短歌集

清水らくは

# ぴよんぴよん

桂馬から跳んで行ってたあの頃の笑顔は二度と手に入らない

少年は震える体押さえつけ「名人になる」唱え続けた

名人は震える指をそのままに「少年だね」と少し笑った

熟考が導き出した歩の一步ロボットアームも温かかった

高跳びを仕留めた数を誇っても歩は王様を仕留められない

床に落ちた時わかったんだ歩だって一所懸命拾ってもらえる

目の前にあるものだけは傷つける恍惚にあるヤマアラシの歩

歩と歩わり飛びたくなつて盤を出るそして歩幸に歩るえることに

動き出す時を待つてる香車には横のことこそ重要だった

ぴよんぴよんと跳ねてるうちはぴよんぴよんが殺意を隠す桂馬ちゃんだよ

腰掛けて待つてる銀を裏切つていつでもねらうまた千日手

ほつといて時には無垢な状態で金の衣を干していたいの

「また僕を切ったね」冷たく笑つてる角は結局君を仕留める

## 穴熊

春までは何も見たくないんです炬燵布団で穴熊作る

その部屋に逃げ込まれたらおしまい藤井システムみたいに追った

少しだけ心開いた瞬間に香りで止め刺してみたいな

頑なに籠る心の防衛線越える魔法は正しい手順で

いつまでも棒銀だけのあなたでもその攻めつけが心を揺らす

団体戦止まぬ震えを押し込めて一、二、の三で銀をつまんだ

人はいつ直進するのを諦めて右銀までも身近に置くの

十年後君の手元に戻るから迷わずに僕突き捨てていい

見よ駒が私のために輝いて早く指せよと促している

されどまだ流れを乱す彗星が宇宙を割いて駆け寄ってくる

三分の沈黙の後7六歩古よりの正義の儀式

伝説に残る勝負の中でなぜ瞬きをした記録の君よ

明日には重みが節理越えるので畳の予備が必要になる

その悪手神なら鉄槌下すはず試されている我の靈性

水を飲む音が記憶を感わせる一時でいい五感よ黙れ

秒読みは悪魔を祓う儀式なれ二人は清き靈魂であれ

永遠が定めていたさ打ち歩詰め光の筋を遍く辿る

君は今敗者で最も美しい再びここで踊り狂おう

## 相入玉

棋譜だけで全てが分かる関係に陥っている二人の幸福

幼さは振り返ること悪とする決して棋譜を残せぬ戦

王冠を被れぬ定め受け入れて紙の兜は猫とお揃い

貝殻に打ち捨てられた遺言は「名人なんか目指しちゃいけない」

棒アイス三本目の甘ったるさで相入玉を宣言できない

投了をする度脱皮繰り返しいつかは盤の空をはばたく

本当は地球自体が電腦で輪廻の棋譜を操っている

暗算で解けなかった問題はやっぱり解きたい暗算だけで

盤上に宇宙を描く同じ手で溶けたアイスを弄んでる

頬杖が美しいから恐ろしいいくつの駒を試すのだろう

間駒で間駒で今震えてるその指先の死刑宣告



# 電脳

自分では起動できない悲しみを表すことを目標にする

対話すらできない存在 概念を超克したい ゲームに挑む

挨拶をしないよりもした方が少し強そう 一つ覚えた

注意して隙を作らず挑みたい序盤中盤終盤基盤

評価値が宣告してるその先に自ら負けを悟る喜び

陽動が陽動だと気付くまで一つ次元が少なかった

一体何が描かれているのか斜め上数値化できぬキャンバスがある

「個の候補あるならば」回試してみたいけど一回の負けが壁をつくるの

シャツダウンしても夢で将棋指せるよう子孫は進化してほしい

将棋にて全ての者を救い給ふ電王千手観音様よ

何度でも恩返しができるようちゃんと追いかけてきてよ、師匠

「まだなんも終わっちゃいねえ」矢倉から聞こえる声を受け止める俺

400手越える熱戦見守った朝は少し空が低くて

おい俺の脳みそ答えるこの後は攻めか受けるかどっちなんだい

将棋は僕を愛さなかった 片思いに捧げる身はまだ温かくて

青春の全てとかいう王冠を四日市に忘れてしまった

美少女が弟子入りしない世界でも勝負はとても美しいから

あの日から終盤力がなくなったそうかあいつがルパンだったか

火の鳥を捕まえたいと思ってる藤井聡太を見届けるため

夏は今全てのことを許すからはしゃいでみてよ手筋の果てで

焼き切れた脳は土に埋めてくれ 蝉と共に関を待つから

## 手合い

勝ち負けを越えて楽しむまた今日もコーヤン流でコーヤン気分

持久戦志向はちよっとどうだろう年賀状の郵便将棋

駒が成るように大人に成れたならついでに老後は駒台でいい

和服には魔法があると知っている一割八分好きが膨らむ

角落ちの手合いで進む恋愛で王手放置をしてくれる君

三十年回り将棋やってないな まっすぐまっすぐ進めてたかな

もう一度チェスクロックを壊そうよ時間を忘れ過ぎていた時代

争いは大気圏に収めよう 将棋星人たちの結論

今日もまた7六歩とつぶやいた早く角を交換させてよ

「 $\text{M}\text{e}\text{M}\text{e}$  勝負はすべて私から私へ帰るつまり  $\text{M}\text{e}\text{M}\text{e}$  だ

振り駒の花びら占い今回も将棋は僕を好きにならない

五手詰めは正解したい 人生はいつか終わってそして始まる

「一手一手の寄りです」その一手がわからないから言言って言って

## 左美濃

十時一分動き出す駒 傷つくことがわかっていても

十時三十分△4二飛車 わかっていたさ、と心の中で

十時四十五分▲8六歩 快楽を生み出す一手がある

のっしりと玉が上がる角の上天守閣とはよく言ったもの

敵ながら美しいと思うもの駒の捌きと捌く手つきと

駒台の空白はもう終わりだ 一瞬で洗脳される敵たち

ざんざんざんざん迫りくる足音 左手で命を逃がしていく

左美濃を愛し続けて二十年そろそろ返事を聞かせておくれ

もう少し君の姿を見たかった詰んだら終わりそういうルール

二十二時五分投了 輪郭のはっきりとした後悔がある

## きつねうどん

餃子食べたい 将棋を見ているとお腹がすくね とっても

「餅追加」言ってみたい昼下がリラーメンサラダで微睡んでいる

不思議だね時代は過ぎて二人ともきつねうどんを頼まない人

おしゃれカフェで「ペリエください」なんてモテちゃうね変態的に

視線には入らないままチョコレート少しは甘味感じているの

コンビニのスイーツの魅力に抗えばきつと悪夢が逃してくれない

絶望の闇にわずかに差す光昼にうな重夜もうな重



ハンバーガーとか食べたいとき素直に言える？ 王手飛車だ

箸を持つ手は老いて見えるのに将棋はきつとヒアルロン酸

投了をするためであろうともこの夕食が未来を創る

寿司定食から寿司を抜いたように何者でもない私を生きる

## 詰将棋

一手詰め持ち駒一つ持ち時間永遠だから息をひそめる

三手詰め解けた時の喜びをタイムカプセル的に保存

詰将棋には天国があるらしい 詰まされた玉も笑っているのか

五手詰めは少し恋愛に似ている 大切なものをいつ捨てればいい

七手詰め解けないままに眠るのは自分条例的に不安で

煙詰めみたいに別れた日 次のページはめくれなかった

人生が余詰めのリートに入ってる 神様、次の世界はちゃんとね

望むもの全てが手に入るならつまりそれは詰まされる玉

詰将棋には宇宙があるらしい 必ず果てはあるという仮説

## 海溝

傷つけば傷つくほどに確実に消えない傷が増えていくこと

「タイムリミットが幸せになる」 分かると理解するの海溝

直線で強くなっていく感覚は弱い心が生み出していた

クリックが雑な音になっていく 夜を通して心が欠ける

君、ソフト指しだろうか？ 魂に深く刻印されているよ

秒読みが君の時だけ少しだけ早くなればと祈るしかない

レーティング溶ければ溶けるほど固くなっていく思考燃やしてしまえ

人生はクリックミスの連続だ本当に詰み、見えていたのに  
海溝の底では光見えなくて光を知らぬふりをしている

## 扇子

飛車という名前の駒を握り締め立ち止まってる安全な日々

脇息になりたがってる人々の心の支えになってる人々

ある棋士が右手を封印したところ愛の力が強まりました

扇子がふらりと舞って次の手を待ってそれは薄い光

フルーツが豊富に用意されている旅館があればそれは、将棋

銀が成る銀が成らない人生はそんな感じで変わってしまふ

失敗も糧にできると言い聞かせフィッシュャールールの人生にする

水を飲む姿全てが愛おしい愛しい人が負けていくのに

傷ついた駒 傷ついた時間 敗者が必要になる魔術

永遠に勝てぬ相手と永遠に同じ頂目指せる快苦

「ありがとうございました」気づくな気づくな奥歯の軋む音を

定跡が得意ならば定型も向いてるんじゃない？ 短歌をどうぞ

片思いの将棋 将棋短歌集

発行日 2020年3月27日

発行 清水らくは

書体 MSゴシック